

平成26年4月9日

(問い合わせ先)

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

三重県戦略企画部戦略企画総務課

(担当): 佐波、天野

059-224-2062 fax059-224-2069

e-mail: sensomu@pref.mie.jp

第3回みえ県民意識調査の集計結果 ~県民の皆さんの幸福実感を調査しました~

県では、「みえ県民力ビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成26年1月から2月にかけて実施した「第3回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

記

調査の概要

- 1 調査期間 平成26年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する20歳以上の男女10,000人に対する郵送アンケート
- 3 有効回答数 5,456人(有効回答率 54.6%)

図表1 有効回答率の推移

| | 調査時期 | 有効回答率 |
|---------|------------|-------|
| 第3回(今回) | 平成26年1月～2月 | 54.6% |
| 第2回(前回) | 平成25年1月～2月 | 54.3% |
| 第1回 | 平成24年1月～2月 | 57.1% |

4 調査項目

- ・幸福感
- ・地域や社会の状況についての実感
- ・生活や仕事のこと
- ・地域や社会とのつながり
- ・家族や精神的なゆとり

集計結果（概要）

1 幸福感

報告書 5~7頁

(1) 日ごろ感じている幸福感

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

第1回及び第2回調査においても質問しています

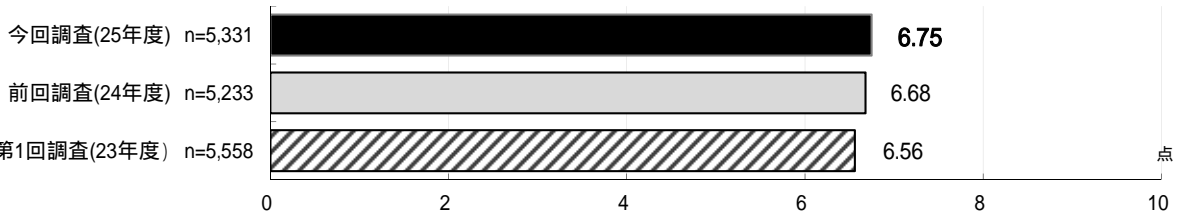
県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.75点で、前回調査より0.07点、第1回調査より0.19点それぞれ高くなっています。

点数の分布をみると、「8点」の割合が24.2%と最も高く、次いで「7点」(18.3%)、「5点」(18.1%)となっており、M字型となっています。

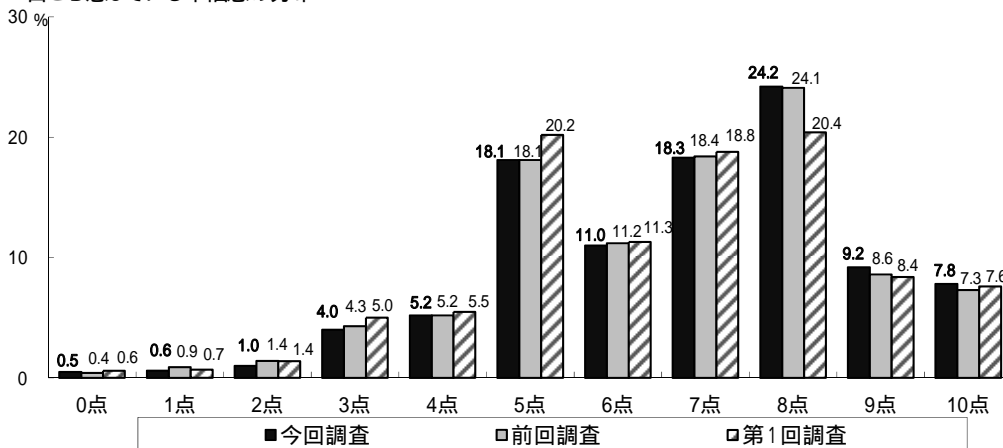
前回調査と比べると、「9点」の割合が0.6ポイント、「10点」の割合が0.5ポイントそれぞれ高く、「1点」から「3点」の割合がそれぞれ0.3ないし0.4ポイント低くなっています。

第1回調査と比べると、「8点」の割合が3.8ポイント高く、「5点」の割合が2.1ポイント低くなっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値



図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



(参考：国及び他県における類似の調査結果(「幸福感」を10点満点で尋ねる調査))

- ・内閣府国民生活選好度調査 (H24.3月実施) 幸福感平均値：6.41点
- ・秋田県民意識調査 (H25.6月実施) 幸福感平均値：5.7点
- ・山形県政アンケート調査 (H25.7月実施) 幸福感平均値：6.34点
- ・福岡県民意識調査 (H25.7月実施) 幸福感平均値：6.59点

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

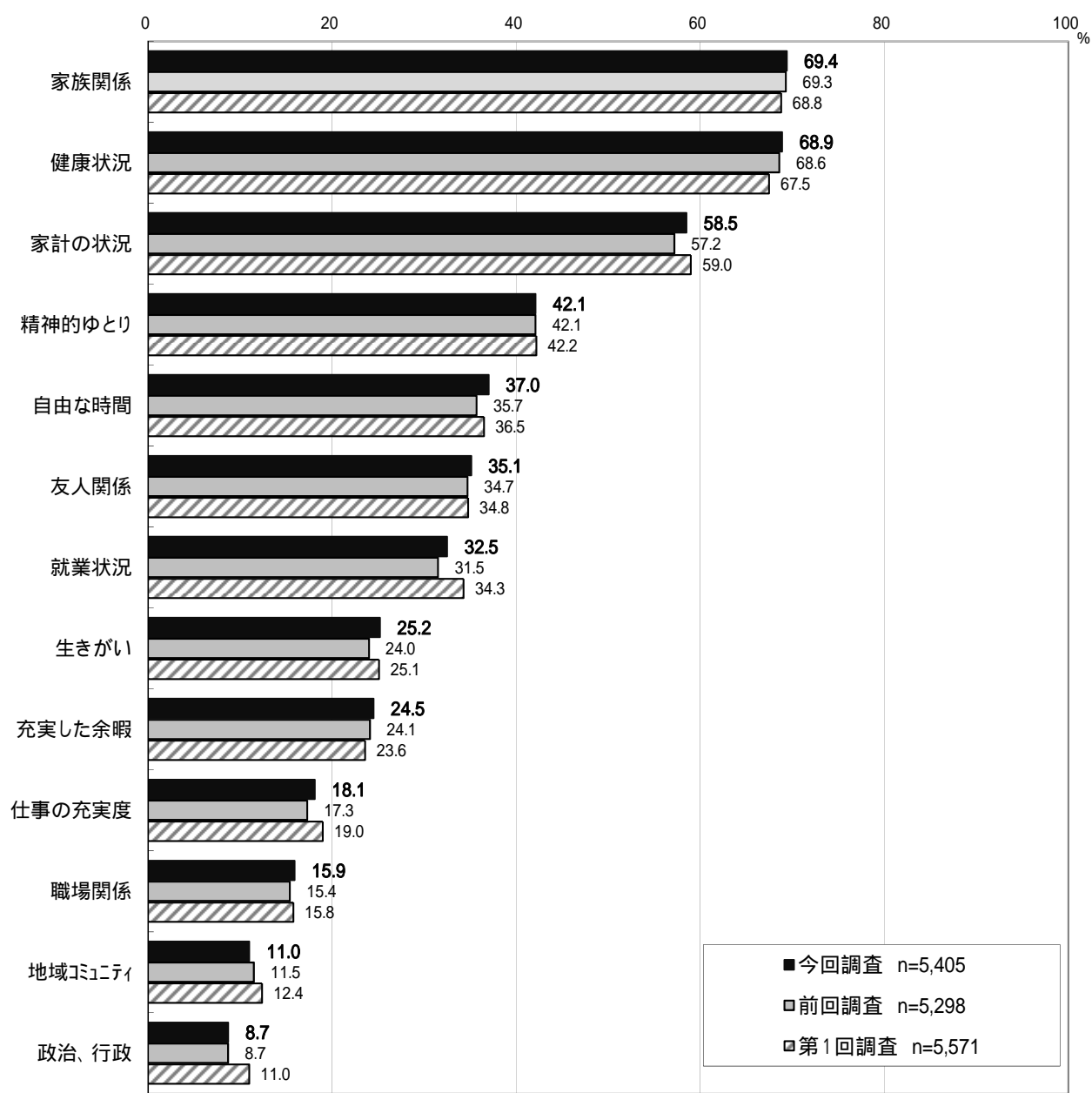
幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

第1回及び第2回調査においても質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は「家族関係」の割合が69.4%で最も高く、次いで「健康状況」(68.9%)、「家計の状況(所得・消費)」(58.5%)となっています。

前回調査と比較すると、前回9位の「生きがい」が8位に、同8位の「充実した余暇」が9位になったものの、順位に大きな変動はありません。

図表4 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



(3) 幸福感を高める手立て

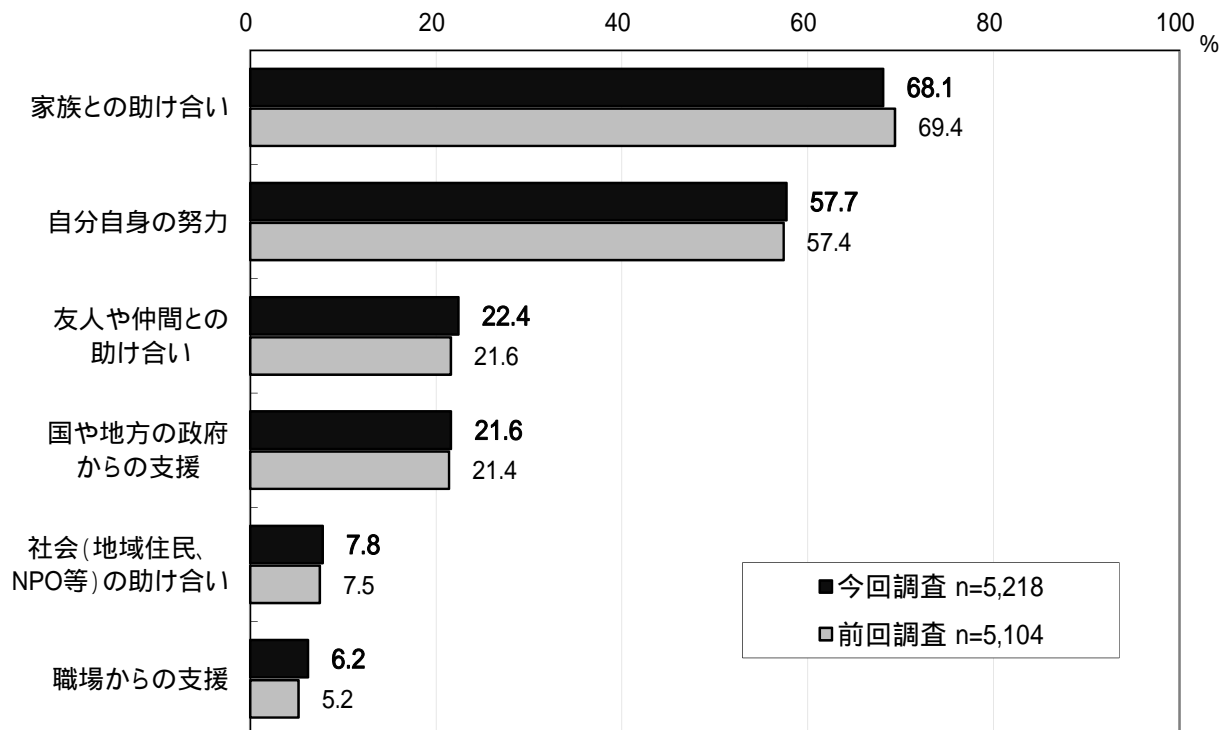
あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

第2回調査においても質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が68.1%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.7%)、「友人や仲間との助け合い」(22.4%)となっています。

前回調査との比較では、「家族との助け合い」が1.3ポイント低くなった一方、「職場からの支援」が1.0ポイント、「友人や仲間との助け合い」が0.8ポイントそれぞれ高くなっていますが、順位に変動はありません。

図表5 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)



2 地域や社会の状況についての実感

「地域や社会の状況についての実感」は、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した16の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。
 - (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
 - (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
 - (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
 - (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。
 - (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。
 - (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
 - (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。
 - (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。
 - (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
 - (11) 文化芸術や地域の歴史等について学び親しむことができると感じますか。
 - (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
 - (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
 - (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
 - (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
 - (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。
- () 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。
1 感じる 2 どちらかといえば感じる
3 どちらかといえば感じない 4 感じない 9 わからない

第1回及び第2回調査においても質問しています

『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(12)三重県産の農林水産物を買いたい」が85.6%で最も高く、次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(72.4%)、「(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(61.5%)の順となっています。

『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が65.2%で最も高く、次いで「(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている」(60.3%)、「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(59.0%)となっています。

前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは16項目のうち9項目で、増加幅が大きい順に「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+11.8ポイント)、「(13)県内の産業活動が活発である」(+6.3ポイント)、「(7)子どものためになる教育が行われている」(+3.8ポイント)となっています。また低くなった7項目の減少幅は全て1ポイント未満となっています。

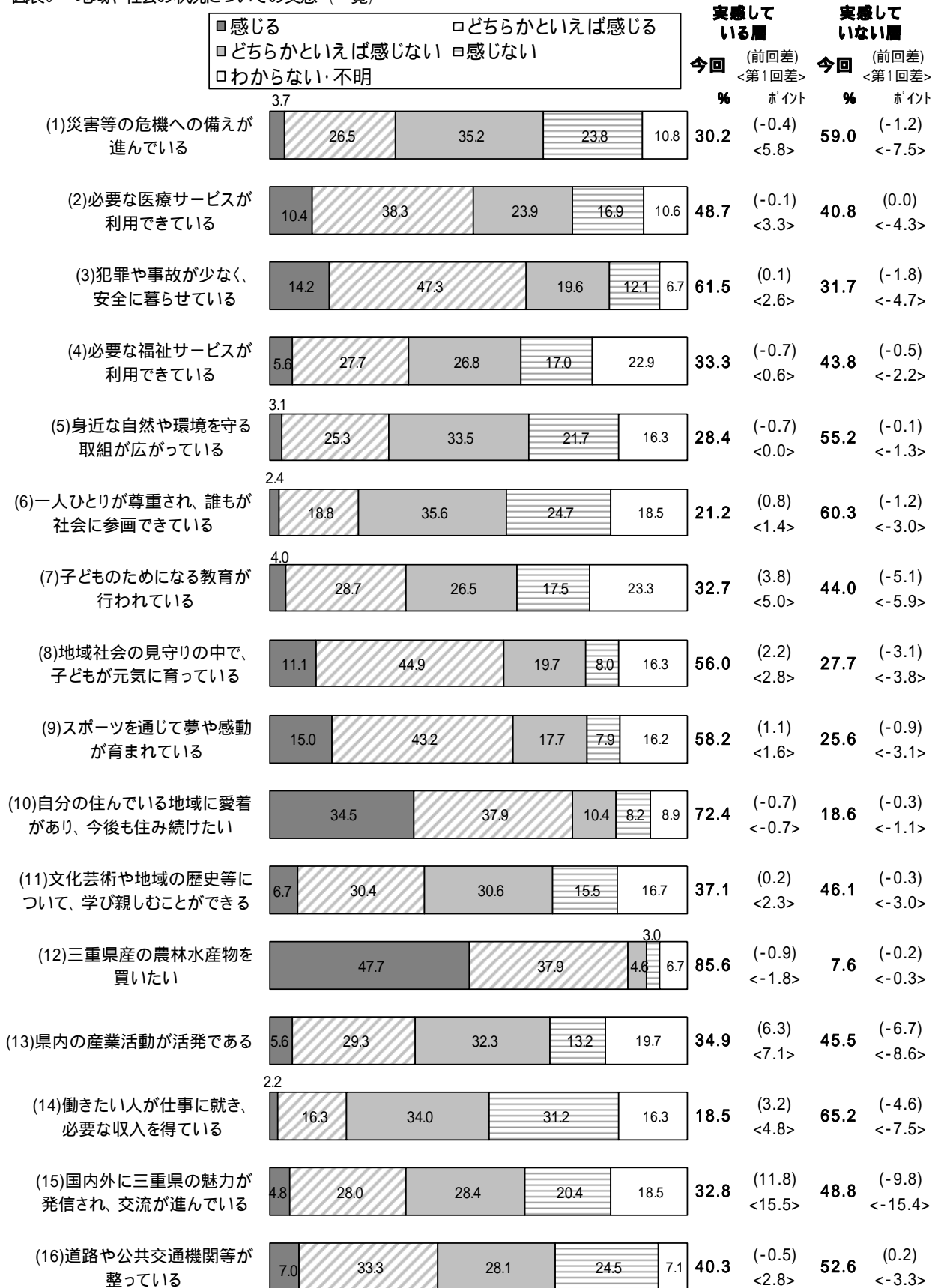
一方、『実感していない層』の割合は「(16)道路や公共交通機関等が整っている」(+0.2ポイント)を除いて前回調査と同率が低くなっており、減少幅が最も大きいのは「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」のマイナス9.8ポイントとなっています。

第1回調査との比較

第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは16項目中13項目で、増加幅が大きい順に「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+15.5ポイント)、「(13)県内の産業活動が活発である」(+7.1ポイント)、「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(+5.8ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は16項目全てで第1回調査より低くなっており、減少幅が大きい順に「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(-15.4ポイント)、「(13)県内の産業活動が活発である」(-8.6ポイント)、「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(-7.5ポイント)及び「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」(同)となっています。

図表6 地域や社会の状況についての実感（一覧）



「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出

3 生活や仕事のこと

(1) 女性就労についての考え方

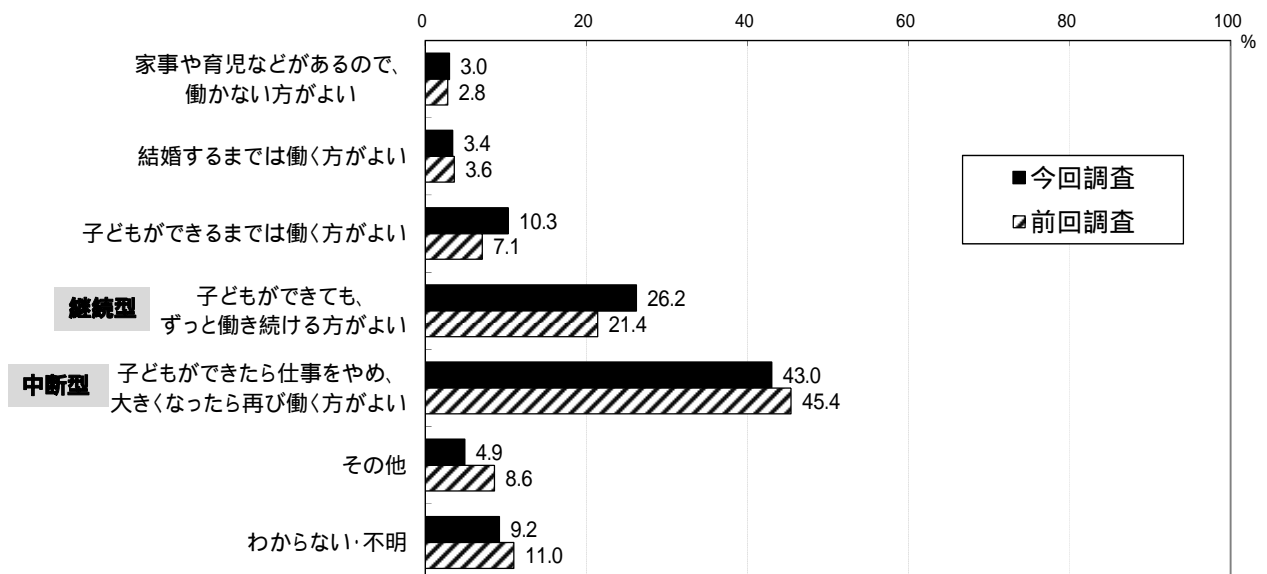
女性が働く（収入のある仕事をする）ことについて、あなたはどのように思いますか。

第2回調査においても質問しています

女性が働くことについてどう思うか質問したところ、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の『中断型』が43.0%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の『継続型』（26.2%）となっています。

前回調査と比較すると、『中断型』と『継続型』の順位に変更はありませんが、『中断型』が2.4ポイント低くなった一方、『継続型』は4.8ポイント高くなっています。

図表7 女性就労についての考え方



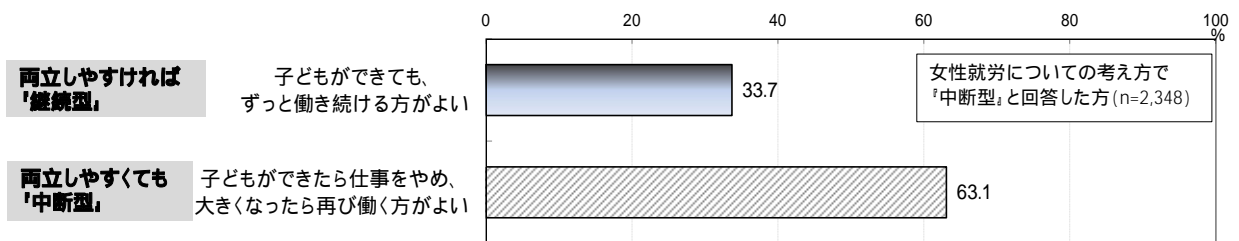
(「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」と回答した方に)

もし現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとするならば、どのように考えますか。

新規の質問です

女性就労についての考え方の質問について『中断型』と回答した方に、仕事と子育てが両立しやすい場合の考え方を質問したところ、「両立しやすければ『継続型』」の割合が33.7%、「両立しやすくても『中断型』」が63.1%となっています。

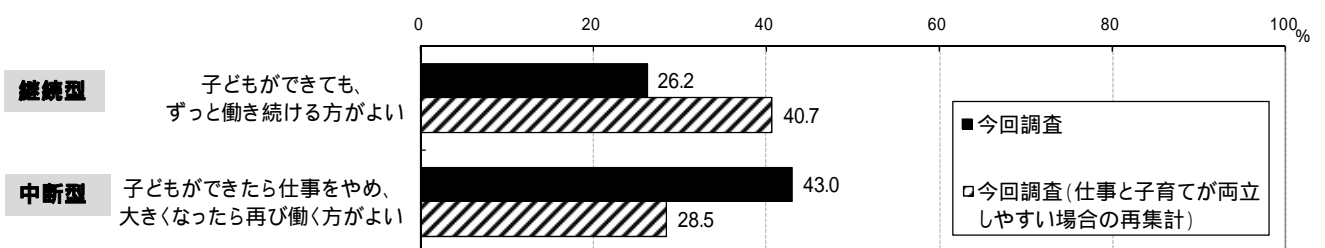
図表8 女性就労についての考え方(仕事と子育てが両立しやすい場合)



スペースの関係上、「わからない・不明」は表記していません。

女性就労に対する考え方について、『中断型』と回答した方に対する仕事と子育てが両立しやすい場合の再質問を含めて集計すると、『継続型』の割合が26.2%から40.7%へ14.5ポイント増加し、『中断型』の割合が43.0%から28.5%へ14.5ポイント減少することになります。

図表9 女性就労についての考え方(仕事と子育てが両立した場合の再質問を含めた集計)



(2) 希望する就業時間

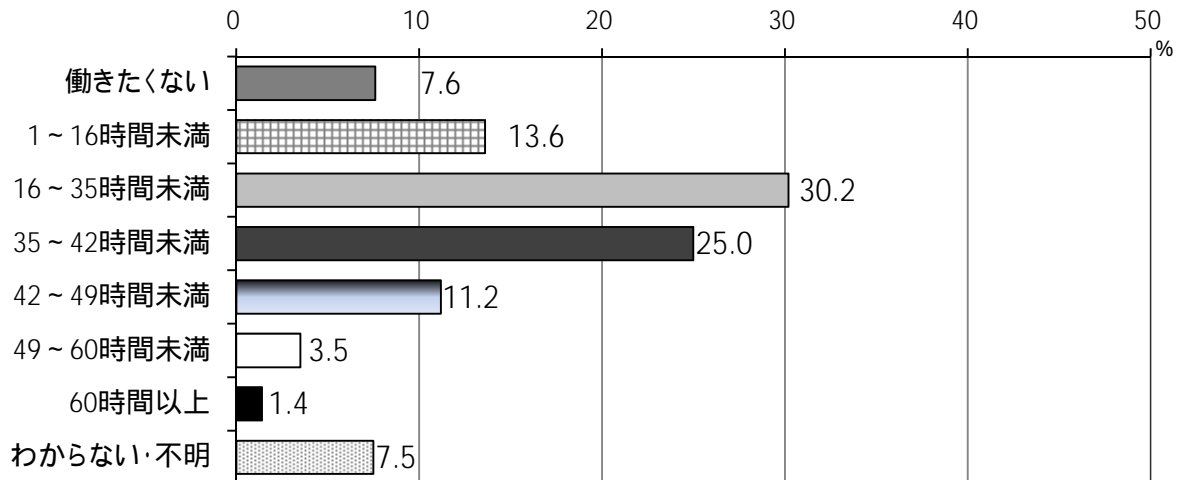
もしあなたが希望する時間だけ働く（収入のある仕事をする）ことができるとすれば、あなたは1週間に何時間くらい働きたいですか。現在働いている方も、そうでない方も全員お答えください。

新規の質問です

希望する就業時間（1週間）を現在働いていない方も含め全員に質問したところ、「16～35 時間未満」の割合が 30.2%で最も高く、次いで「35～42 時間未満」（25.0%）、「1～16 時間未満」（13.6%）の順となっています。

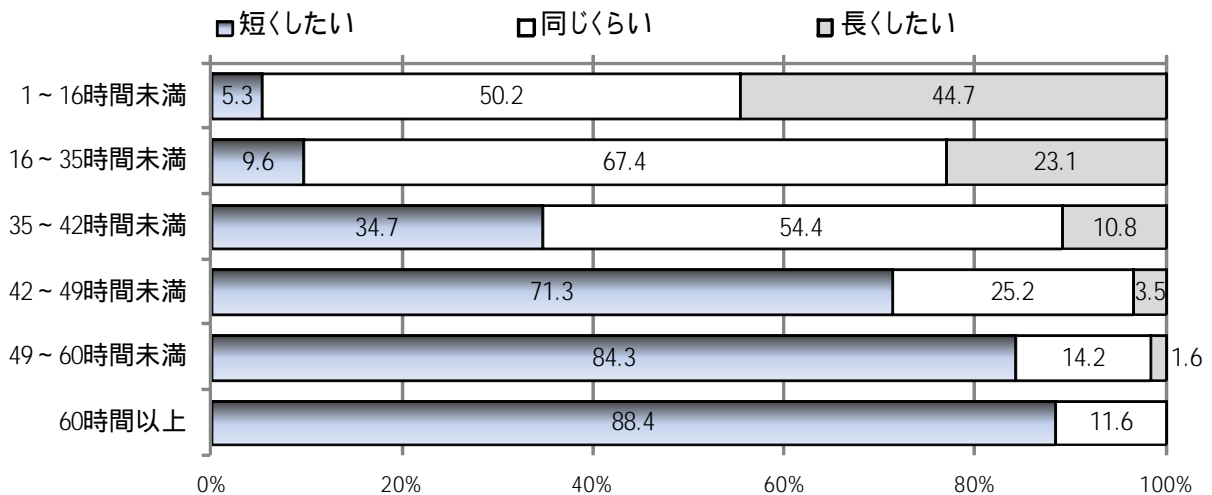
また、「働きたくない」の割合は7.6%、「60 時間以上」は1.4%となっています。

図表 10 希望する就業時間



なお、就業時間の希望と現状との関係を見ると、以下のとおりです。

図表 11 就業時間の希望と現状



短くしたい・・・希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢より短い区分の場合
 同じくらい・・・希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢と同じ区分の場合
 長くしたい・・・希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間（問5-2）で回答した選択肢より長い区分の場合

4 地域や社会とのつながり

報告書 62～63 頁

(1) 地域の住みやすさ

あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

第1回、第2回調査及び23年度までの一万人アンケートにおいて質問しています

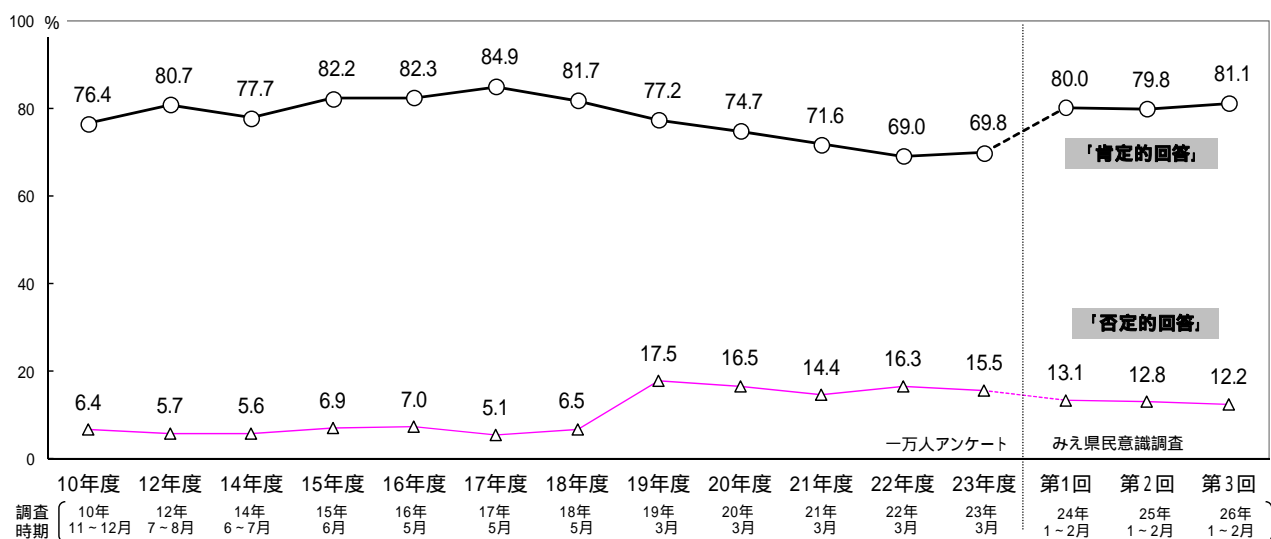
お住まいの地域が住みやすいか質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した『肯定的回答』の割合が81.1%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した『否定的回答』の割合（12.2%）より68.9ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が1.3ポイント高く、『否定的回答』の割合は0.6ポイント低くなっています。

第1回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が1.1ポイント高く、『否定的回答』の割合は0.9ポイント低くなっています。

地域の住みやすさについての意識は一万人アンケート（平成10年度～23年度実施）から継続して調査しています。一万人アンケートの結果を含む推移は以下のとおりです。

図表12 (参考)一万人アンケート(23年度まで)とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



一万人アンケートの「肯定的回答」…「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。

一万人アンケートの「否定的回答」…「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計したもの。

(2) 会話の程度

あなたは、ご家族やご近所、職場や学校の方、友人や知人の誰かと、ふだんの程度、直接会って会話をしていますか。(電話やメールなどの対面ではない場合は除きます。また店での注文など、知らない人との会話も除きます)

新規の質問です

どの程度会って会話をしているかを「家族」、「近所の人」、「職場や学校の人」、「友人・知人」に分けて質問しました。

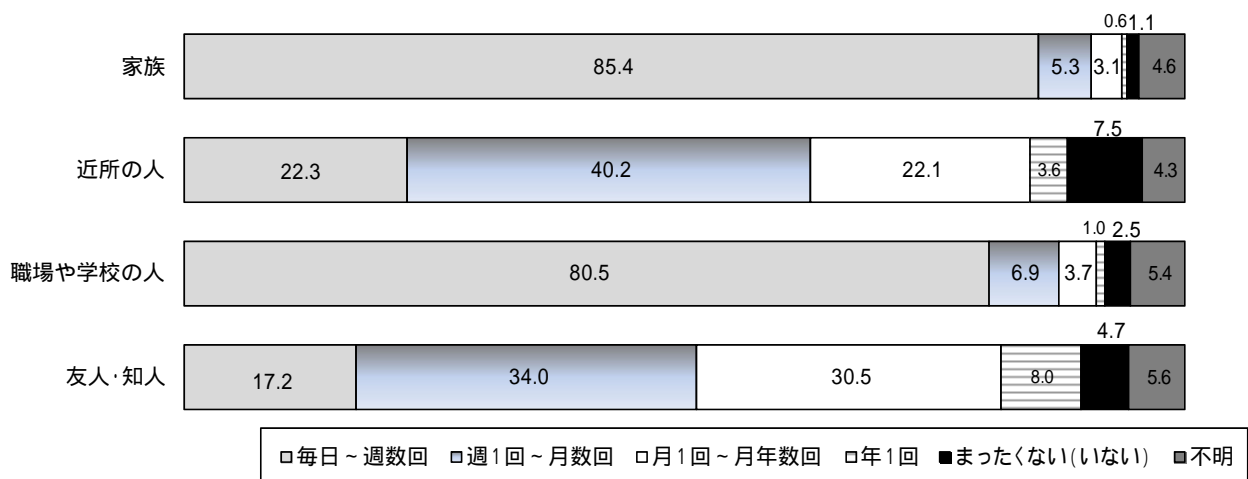
家族との会話の程度については、「毎日～週に数回」が85.4%、「週に1回～月に数回」が5.3%、「月に1回～年に数回」が3.1%、「年に1回」が0.6%、「まったくしていない(もしくははいない)」が4.6%となっています。

近所の人との会話の程度については、「毎日～週に数回」が22.3%、「週に1回～月に数回」が40.2%、「月に1回～年に数回」が22.1%、「年に1回」が3.6%、「まったくしていない(もしくははいない)」が7.5%となっています。

職場や学校の人との会話の程度について、専業主婦・主夫及び無職を除いて集計したところ、「毎日～週に数回」が80.5%、「週に1回～月に数回」が6.9%、「月に1回～年に数回」が3.7%、「年に1回」が1.0%、「まったくしていない(もしくははいない)」が2.5%となっています。

友人・知人との会話の程度については、「毎日～週に数回」が17.2%、「週に1回～月に数回」が34.0%、「月に1回～年に数回」が30.5%、「年に1回」が8.0%、「まったくしていない(もしくははいない)」が4.7%となっています。

図表13 会話の程度



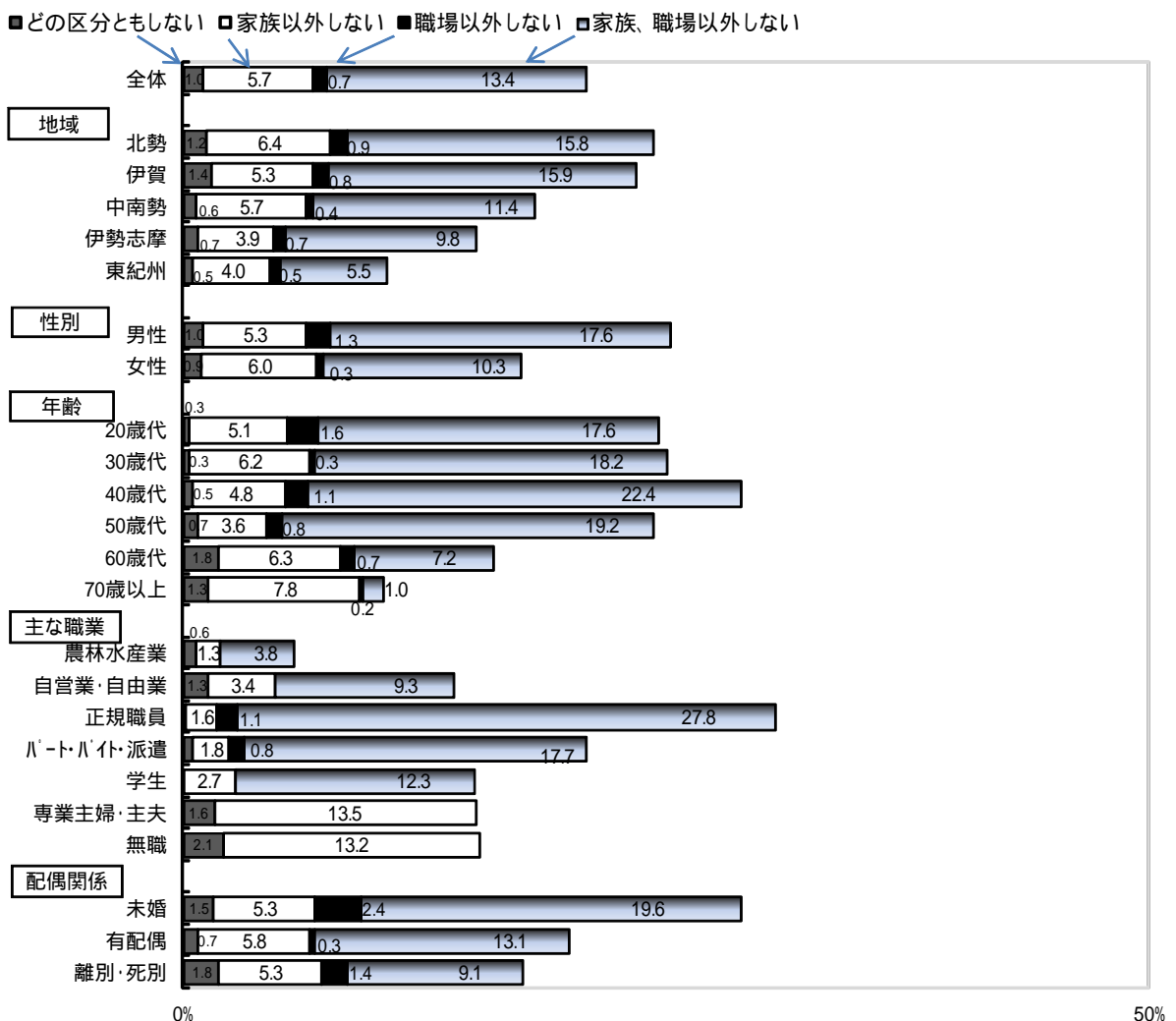
「家族」、「近所の人」、「友人・知人」は有効回答者全てを対象に集計し (n=5,456) 「職場や学校の人」は「専業主婦・主夫」、「無職」と回答した人を除いて集計しています。(n=3,431)

(ふだん会話しない層)

会話の程度が「月に1回～年に数回」、「年に1回」、「まったくしていない(もしくはいない)」の場合を『ふだん会話しない』とみなし、家族、近所の人、職場や学校の人、友人・知人を合わせて集計しました。

- ・どの区分の人とも『ふだん会話しない』割合は1.0%となっています。
- ・家族以外と『ふだん会話しない』は5.7%で、属性項目別では、無職や専業主婦・主夫が高くなっています。
- ・職場や学校の人以外と『ふだん会話しない』は0.7%となっています。
- ・家族、職場や学校の人以外と『ふだん会話しない』は13.4%で、属性項目別では、男性や40歳代、正規職員などが高くなっています。

図表14 ふだん会話しない層



近所の人及び友人・知人のいずれかもしくはいずれにも回答がなかったものを除外して集計 (n=5,060)

(3) 地域活動への参加状況と意欲

あなたは、今までに、自治会やボランティア、サークル、団体などで行う次のような活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

新規の質問です

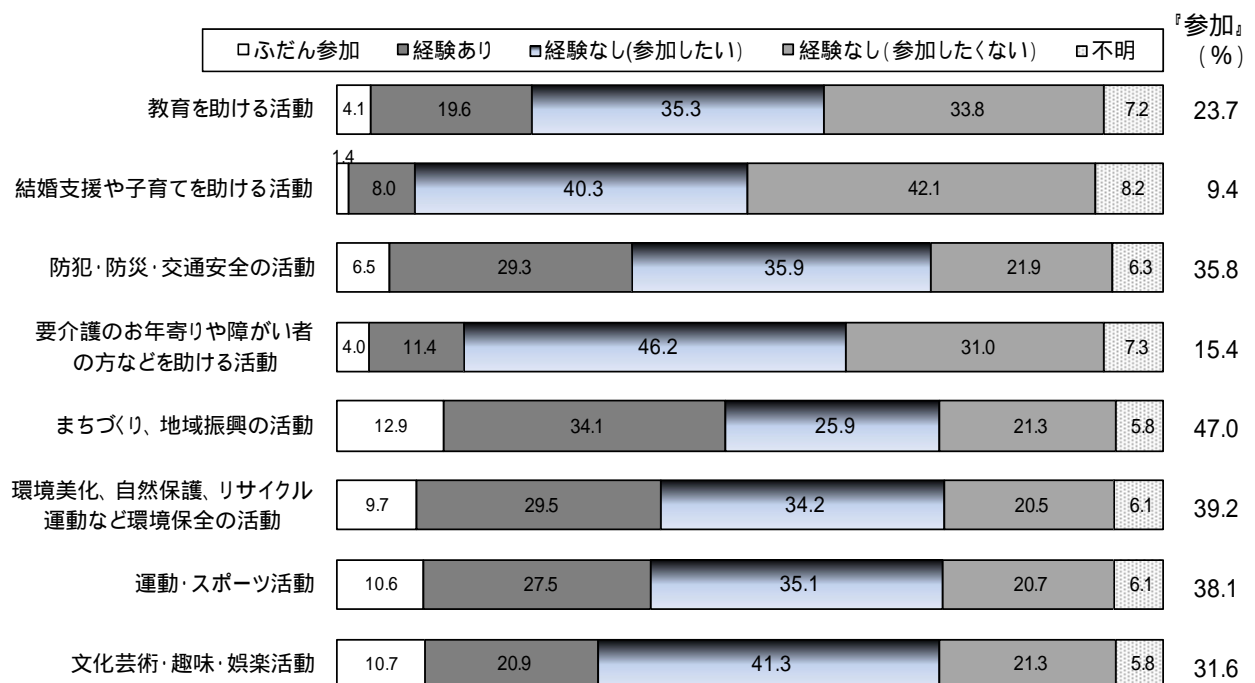
自治会やボランティア、サークル、団体などで行う地域活動への参加状況と意欲について、8分野について質問しました。

「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合計した『参加』の割合は「まちづくり、地域振興の活動」が47.0%で最も高く、次いで「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」(39.2%)、「運動・スポーツ活動」(38.1%)となっています。一方、「結婚支援や子育てを助ける活動」は9.4%で最も低くなっています。

「参加したことはないが、機会があれば参加したい」の割合は、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」が46.2%で最も高く、次いで「文化芸術・趣味・娯楽活動」(41.3%)、「結婚支援や子育てを助ける活動」(40.3%)となっています。

「参加したことはなく、参加したいとも思わない」の割合は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が42.1%で最も高く、次いで「教育を助ける活動」(33.8%)、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」(31.0%)となっています。

図表 15 地域活動への参加状況と意欲



5 家族や精神的なゆとり

報告書 80～81 頁

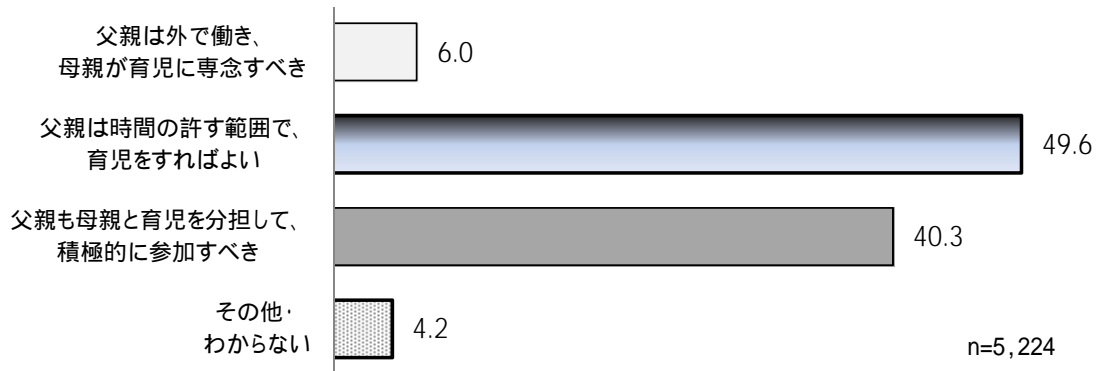
(1) 父親の育児参画についての考え方

父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか。

新規の質問です

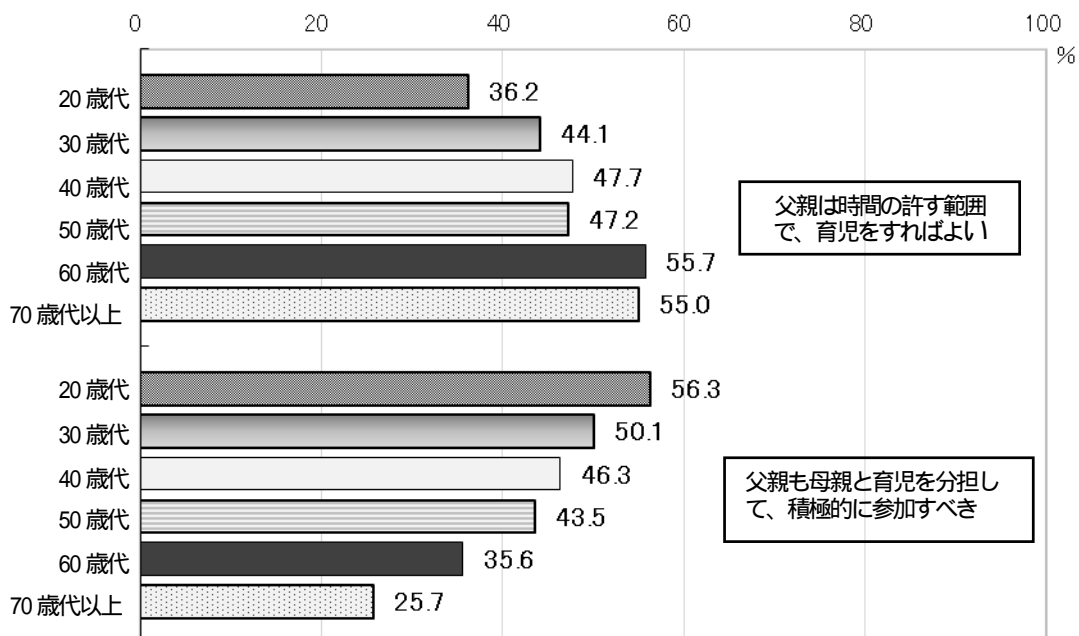
父親の育児参画についての考え方を質問したところ、「父親は時間の許す範囲内で、育児をすればよい」の割合が 49.6%で最も高く、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」が 40.3%、「父親は外で働き、母親が育児に専念すべき」は 6.0%となっています。

図表 16 父親の育児参画についての考え方



年代別に見ると、年代が低いほど「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」の割合が高くなっています。

図表 17 父親の育児参画についての年代別の考え方



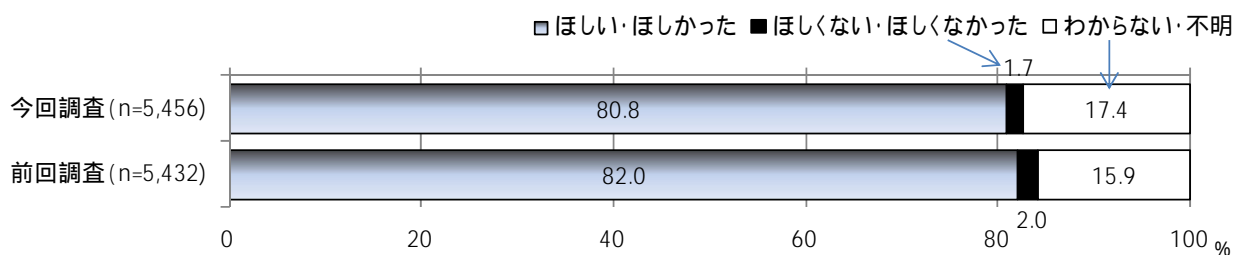
(2) 理想の子どもの数

あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子どもの人数をお答えください。

第2回調査においても質問しています

「子どもがほしい・ほしかった」の割合は80.8%、「ほしくない・ほしくなかった」が1.7%で、いずれも前回調査より低くなっており、「わからない・不明」が高くなっています。

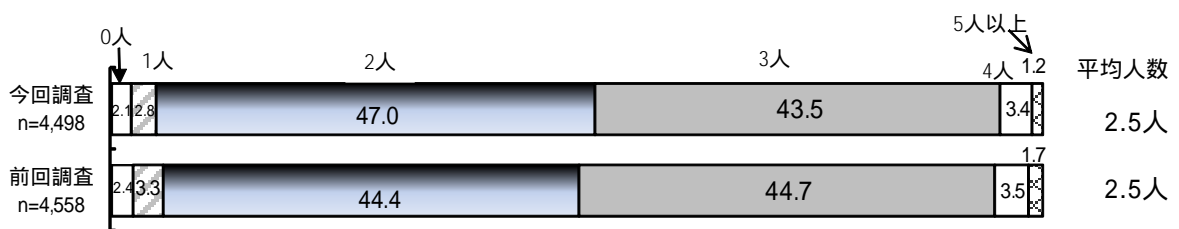
図表 18 子どもを希望する割合



理想の子どもの数については、「2人」の割合が47.0%で最も高く、次いで「3人」(43.5%)となっています。前回調査と比較すると「2人」の割合が2.6ポイント高くなった一方、「0人(ほしくない、ほしくなかった)」、「1人」、「3人」などの割合は低くなっています。

理想の子どもの数の平均は2.5人で、前回調査と同じとなっています。

図表 19 理想の子どもの数の推移

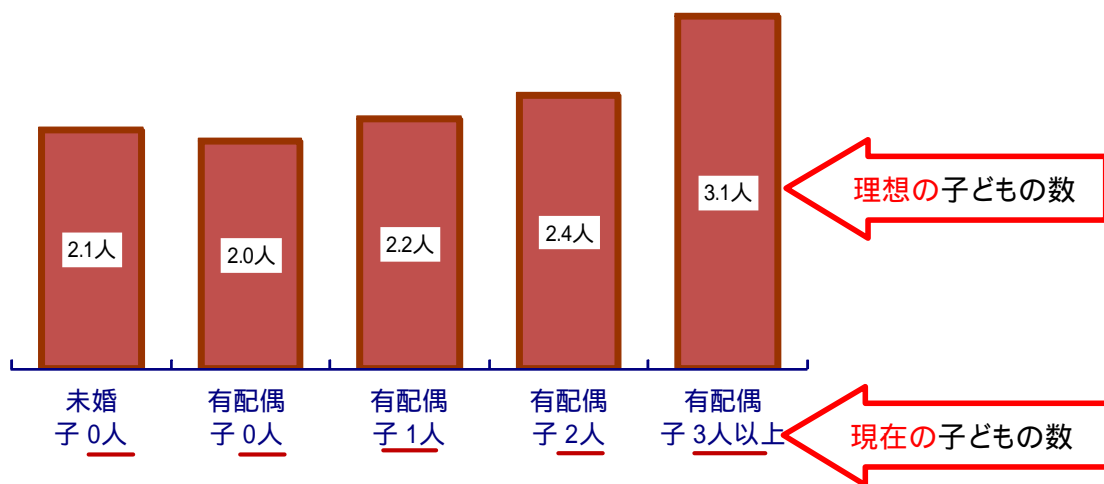


理想の子どもの人数が明記された回答、及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。(n=4,498)
平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

(子どもの数の理想と現実のギャップ)

20歳代から40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は未婚で子どもいない層は2.1人、有配偶で子どもがない層は2.0人、有配偶で子ども1人の層は2.2人、有配偶で子ども2人の層は2.4人、有配偶で子ども3人以上の層は3.1人で、現在の子どもの数は理想の数より少なくなっています。

図表20 20歳代～40歳代の子どもの数の理想と現実(今回調査)



(3) 結婚に対する考え方

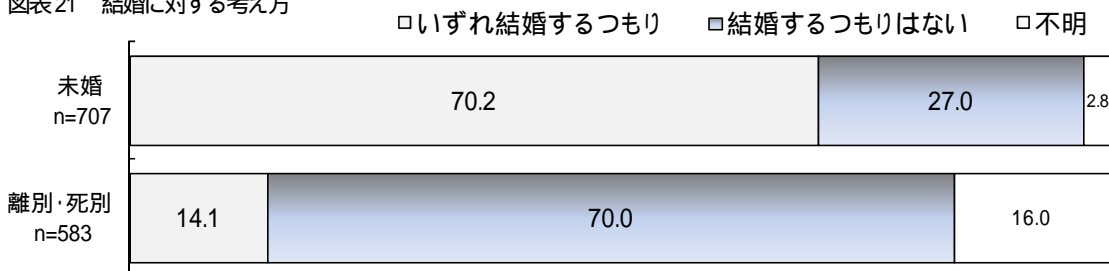
今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対する考え方は、次のうちどちらですか

新規の質問です

結婚に対する考え方について、未婚は「いずれ結婚するつもり」が70.2%、「結婚するつもりはない」が27.0%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が14.1%、「結婚するつもりはない」が70.0%となっています。

なお未婚の20歳代における「いずれ結婚するつもり」の割合は91.2%となっています。

図表21 結婚に対する考え方

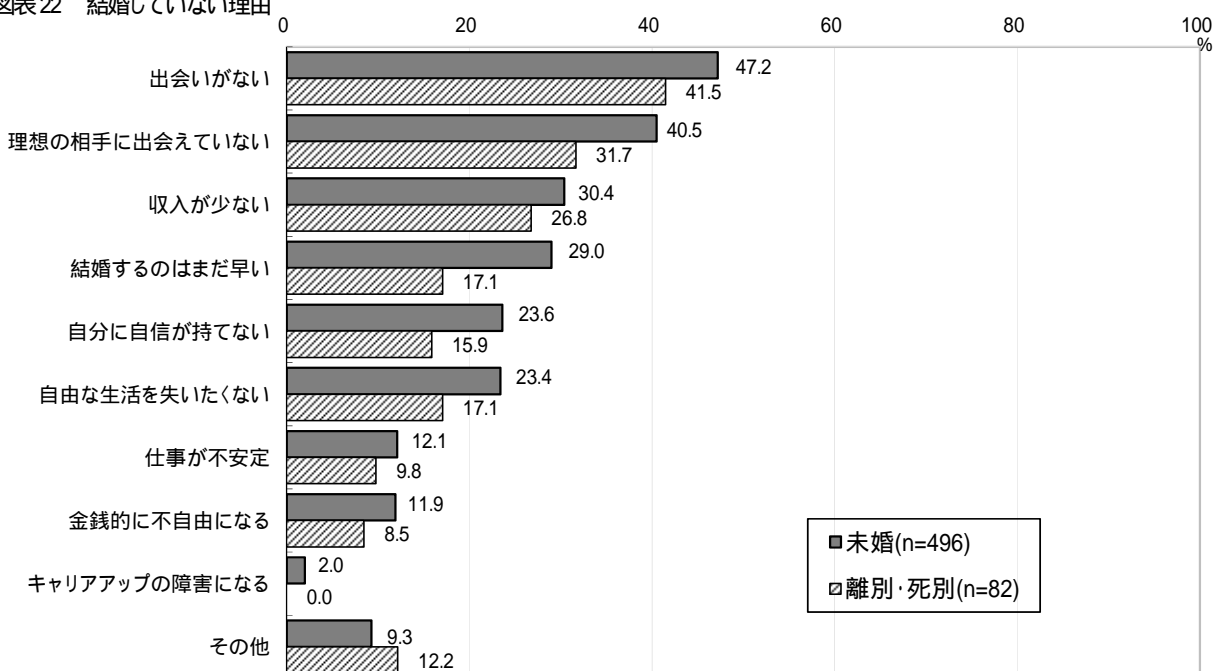


(「いずれ結婚するつもり」と回答した方へ) 現在、結婚していない理由は何ですか。

第2回調査と質問形式が若干異なります

「いずれ結婚するつもり」と回答した方に結婚していない理由を質問したところ、未婚、離別・死別いずれも、「出会いがない」の割合が最も高く、次いで「理想の相手に出会えていない」、「収入が少ない」の順となっています。

図表22 結婚していない理由



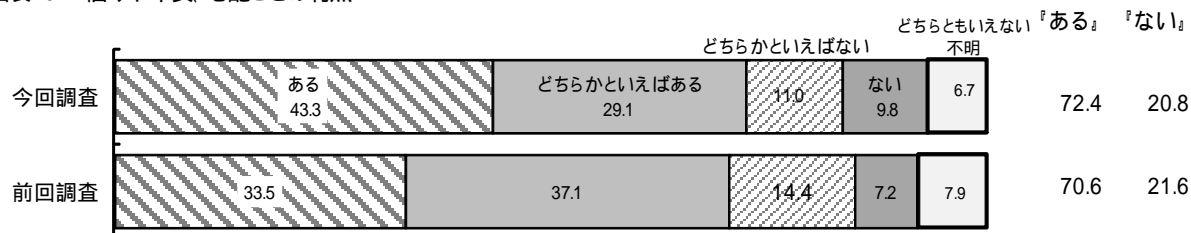
(4) 悩みや不安、心配ごとなど

あなたは、悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることはありますか。

第2回調査においても質問しています

悩みや不安、心配ごとなど精神面で負担となっていることがあるか質問したところ、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した『ある』の割合が72.4%、「ない」と「どちらかといえばない」を合計した『ない』の割合(20.8%)より51.6ポイント高くなっています。

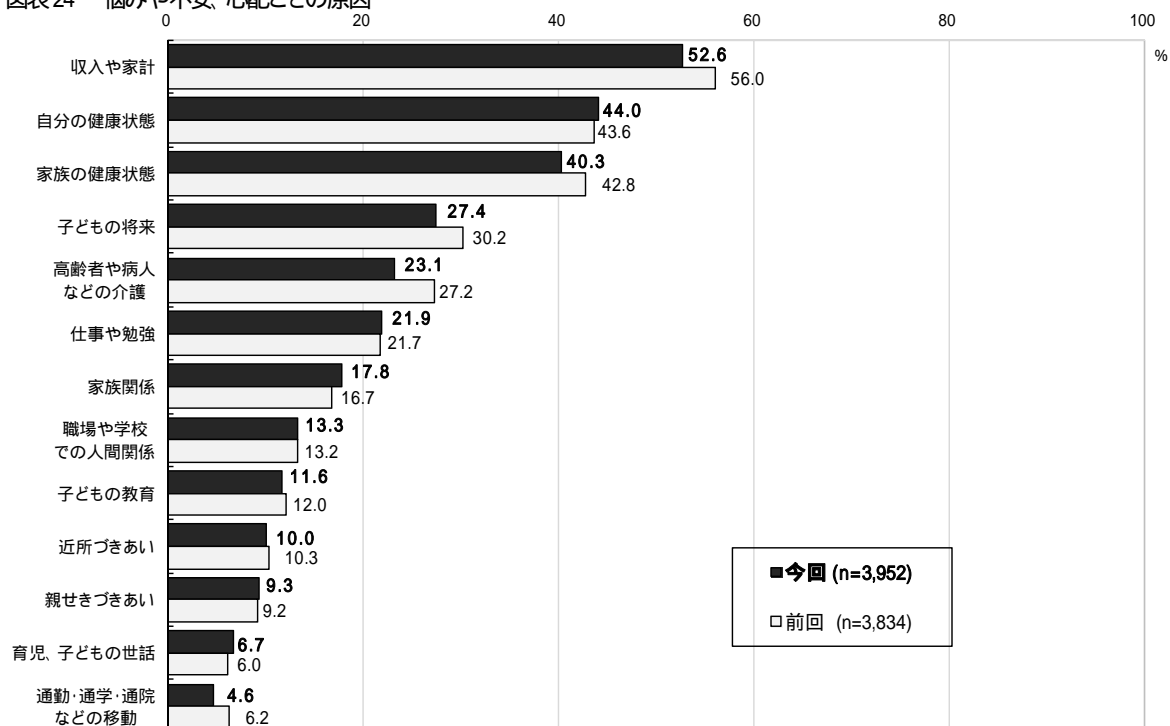
図表23 悩みや不安、心配ごとの有無



その原因としてあてはまるものは何ですか。

悩みや不安、心配ごとなど精神面で負担となっていることが「ある」か「どちらかといえばある」と回答した方に悩みや不安、心配ごとなどの原因について質問したところ、「収入や家計」の割合が52.6%で最も高く、次いで「自分の健康状態」(44.0%)、「家族の健康状態」(40.3%)となっています。

図表24 悩みや不安、心配ごとの原因



その他

第3回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、4月10日から県ホームページでご覧いただけます。また平成26年4月15日から県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局）に配置する予定です。

<http://www.pref.mie.lg.jp/SENSOMU/HP/mieishiki/> （「みえ意識トップ」で検索）

今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析を行い、平成26年夏頃までに分析結果をレポートにまとめ、公表する予定です。